

小学校英語お悩み相談室

| 第4回 |

本年度から移行期間となった小学校での英語教育。初めてのことにとまどう先生も多いと思います。先生方のそのお悩みを、英語教育のスペシャリストである小泉 仁先生が受け止めます。



QUESTION.1

英語の時間だけ
ファーストネームでよぶことに
違和感があります。

A 無理によぶ必要はなし 文化の違いは理解させたい

名字でよぶか、ファーストネームでよぶか、これに関しては一概にどちらが正しいとは言いきれません。先生が普段から子どもたちをファーストネームでよんでいるクラスなら違和感はないでしょうけれども、名字に「さん」を付けてよぶことを基本としている学校もあります。ファーストネームが学校の方針にそぐわないのであれば、英語の時間もそのまま名字でよんでかまわないでしょう。

ただ、日本では、敬意を表すために「名字+さん」でよぶことが基本ですが、それは世界共通の文化というわけではありません。英語圏では、目上の人に対してもファーストネームでよぶことがあります。大学でも、先生自身が学生に「ファーストネームでよんで」と言うことがありますね。お互いにファーストネームでよび合うことにより、人間関係を近づけようとしているわけです。

基本的に、ネイティブのALTにとって、子どもたちにファーストネームでよばれることは、親近感をもってもらっているという意味では、喜ばしいことのはずです。逆に敬称と名字でよばれると、もしかするとよそよそしさを感じてしまうかもしれない。**言葉によって異なるそういった文化の違いを、子どもたちにも理解させられるとよいですね。**

ネイティブのALTと触れ合える機会を最大限に活用し、英語の時間だけは異文化を体験する場として切り替え、ファーストネームでよび合うのも一つの考え方だと思います。子どもたちは、日本とは異なる、英語圏特有のコミュニケーション方法を学ぶことができるはずです。

授業中にどうよぶかについては、先生どうしでしっかりと話し合っ方針を決めるとよいでしょう。名字でよぶと決めた場合でも、ALTにきちんと説明すれば、分かってもらえると思います。お互いに、文化の違いを認めつつ歩み寄る姿勢をもちたいですね。

小泉 仁 こいずみ 仁
東京家政大学教授

元・文部科学省初等中等教育局教科書調査官。
日本児童英語教育学会(JASTEC)会長。
一般財団法人語学教育研究所理事。
中学校英語教科書
『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の
編集委員を務める。

どんなお悩みにも
お答えします



QUESTION.2

ローマ字を
英語だと思っている子どもたちに、
どう指導したらよいですか。



A ローマ字は日本語表記の一つ 個々の文字の音を認識させよう

ローマ字は、小学3年生の国語の授業で取り扱います。ローマ字は英語ではなく、アルファベットで表記された日本語なのですが、子どもたちにはそういった区別が難しく、国語の授業でローマ字を学習したら、英語が書ける、読めると思ってしまうことがあります。これからは小学3年生から外国語活動が始まりますので、先生方はより一層、そのことを意識して指導する必要があるでしょう。

ローマ字はアルファベットを用いますが、書かれたものは日本語であり、英語とは仕組みが異なることを子どもたちに理解させる必要があります。国語、英語の両方の時間に、先生が丁寧に説明すべきです。「日本語をローマ字を使って書いても、それは英語ではないんだ」と。

ローマ字は日本語であり、ほとんどの音が「子音+母音」がセットになって表記されま

す。実際、日本語の「さ」は、/s/という子音と/a/という母音の組み合わせで構成されており、それが一つの音として扱われます。

しかし、英語ではあくまでも、子音と母音が別々の音として認識されます。そのため、子音は子音として、母音は母音として区別できることが重要になります。**子音と母音を切り離す練習をすることで、英語特有の発音やつづりはローマ字では表せないことに気づかせられるとよいですね。**

その練習のためには、catやdogなどの3文字の英単語を活用するのがおすすめです。catであれば、caとtに分けるのではなく、c+atと分解して子どもたちに読ませてみる。このように、語頭の子音文字だけを目立たせて練習することで、子音の一つ一つに、どんな音があるのかを意識させます。

なお、小学校の段階では語頭の1文字の練習で十分です。そのうちに、英語のつづりを見慣れて、ローマ字との違いが理解できるようになるでしょう。